No-01-003-02

《題目》午後 5 時以降仕事している社員は、仕事ができない社員 その 2

さて前回の続きです。私だけが、毎日遅くまで残業していたのかを説明致します。私の処理能力が人並み外れて劣っていたのか？... 答えはノーです。実は、私が 1 人でやっていた仕事は、1.5～1.6 人分の仕事量だったのです。この仕事は、私と先輩との 2 人が担当だったのです。この仕事についた時、その先輩が言った言葉は、『忙しいとは思うけど、仕事を覚える為に、最初すべてを 1 人でやってみて。大変だったら、手伝うから』と。与えられた仕事の量も判らない新人の私は、とにかく頑張りました。でも、昇給やボーナスの査定の元となる業務処理実績は、先輩が半分持っていくので、私は常に 0.7 か 0.8 人分しか仕事をしていないことになっていたのです。

いくら頑張っても 5 時には終わらない。手伝ってくれと言っても、「今、他の仕事があるから、今日は手伝えない」。半年たっても 1 年経っても、1.5～1.6 人分の仕事を 1 人で処理することが続きました。そして 1 年が経過した頃、ある感染症に罹漢し、2 ヶ月入院することになりました。2 ヶ月強の入院と、1 ヶ月の自宅療養を終え、仕事に復帰した時には、私が 1 人でやっていた仕事を、2 人でやっていました。その先輩は「ごめんね」と一言、言ってはくれましたが、周りの人を気にして取り繕っていただけのような気がして、私は、何も言わず、だからと言って怒ることもしませんでした。このような人には、何を言っても、性根は治らない。そう思ったからです。すると、最も信頼していた M 先輩が、「あいつ以外はみんな、お前がどれだけ頑張ったかは判っているから、安心しろ。怒鳴ったり、喧嘩なんかするなよ」と言って慰めてくれました。

ここで言いたいのは、長時間労働は、処理能力・意欲や想像力等を減退させるということ。私の実体験です。更に重要なのは、管理職は、部下の能力と仕事量を把握し、適正な業務配分を心がけること。殆ど遊んでいても仕事をしているように見せる社員がいることを認識し、適切に対処する。自分の業績だけを気にして、他者を蹴落とすような人は、必ず化けの皮を剥がさなければいけない。基本的に仕事は 1 人でするものではなく、皆と協力することで、グループ全体の総和として最大の業績を達成できるのです。